

## “秋田”の博物館 秋田県立博物館

秋田県立博物館 展示企画・工芸担当学芸主事 宮 本 康 男

### 1 場所と沿革

秋田県立博物館は、秋田市郊外の県立小泉潟公園にあります。自然に恵まれた環境にあり、小泉潟と総称される男潟、女潟の女潟湿原植物群落は秋田県の天然記念物に指定されています。小泉潟公園には広場、菖蒲園、日本庭園のほか、秋田県立博物館分館になっている旧奈良家住宅(国重文)などもあり秋田県民の憩いの場となっています。

秋田県立博物館は昭和47年3月に公にされた「秋田県立綜合博物館設立基本構想」に盛られた理念のもとに、美術・工芸・歴史・考古・民俗・生物・地質の7部門を備えた綜合博物館として昭和50年5月1日に設置され、同5日開館、同10日から一般公開されました。

「設立構想」には郷土学(秋田学)が当館の基礎になるべきであるとする考えが示されています。それを受け、今まで郷土秋田の自然と文化にかかわる調査、研究、資料収集を行い、綜合博物館としての特性を生かした広範な分野にわたる展示と、教育普及活動を実施してきました。

その後、新設の県立近代美術館への美術

資料の移管にともない美術部門の担当が無くなり、美術を除いた6部門となりました。平成8年春には「秋田の先覚記念室」と「菅江真澄資料センター」が開設され現在に至っています。

### 2 構 成

学芸課は12名の常勤職員と12名の非常勤職員、5名の臨時職員で構成されています。展示室は大きく五つに分かれており展示室の総床面積は約3,000平方メートルあります。9名の非常勤の女性解説員が交代でこの展示室の解説に当たっています。

工芸1名、歴史3名、考古1名、民俗3名、生物2名(動物1、植物1)、地質1名の部門担当の常勤スタッフが合わせて調査研究、資料管理、教育普及、展示企画、広報出版の業務を分担します。現在学芸課を束ねている課長は地質が専門です。

調査研究担当は館として取り組む調査研究の企画やとりまとめを行います。資料管理担当は、資料収集や資料の特別利用の手続き、資料の保存管理に当たります。教育普及担当は解説員の指導援助、博物館教室の運営のほか、友の会のサポートなどを

行っています。展示企画担当は、各部門担当のスタッフから出される展示の企画を調整し展示計画を作成するほかに、展示設計、ディスプレイの製作、展示施工の工程管理を行っています。また、常設展示のメンテナンスと改善も担当します。広報出版担当は文字通り宣伝と館の広報用印刷物の企画発行に当たります。

秋田の先覚記念室と菅江真澄資料センターは学芸課スタッフで構成される委員会によって運営されています。

### 3 展示

本館の展示室は、第1、第2、第3展示室と増設された秋田の先覚記念室、菅江真澄資料センターの5室です。また、旧奈良家住宅と呼ばれる江戸時代に建てられた豪農の住居が分館になっています。

第1展示室は「秋田のおいたち」というテーマで、秋田の風土とその中で営まれてきた人々の暮らしを時の流れに沿って紹介する常設展示になっています。これは地質・考古・歴史を中心になり、それに民俗・美術・工芸・生物の部門が加わった幅広い内容で総合的に構成され、徹底的に秋田にこだわった展示となっています。

展示ホールから第一展示室へと入りますが、展示ホールに面しては「山から出たクジラ」が展示されています。導入部分では宇宙生成のイメージから、古生代、

中生代までが象徴的に展示され、「グリーンタフ活動がはじまる」の部分からは秋田に視点を据えた具体的な展示が展開されています。このあと「日本海の形成と珪化木」「デスマスチルスの出現と黒鉱の形成」「秋田の深海時代と石油の形成」「奥羽山脈の形成と広がる県土」と続き、「秋田にゾウがいたころ」を移行部分として、考古・歴史主体の人間にかかわる展示になっていきます。

人間が出てくるところまでが、地質の展示となっている訳です。ここまで比較的人気が高いのが「山から出たクジラ」のデワクジラ（ヒゲクジラのなかま）の骨格化石、グリーンタフ活動のジオラマ、デスマスチルスの骨格化石模型などです。デワクジラは由利郡矢島町の山地のおよそ1,000万年前の岩層から掘り出されたそのままの姿で岩層に仰向けに横たわって展示されています。これは地殻の変動の激しさを直感的に人々に訴えかけ、入館者の興味を引いています。また、化石の姿勢が仰向けになっていることも疑問の的になっているようです。グリーンタフ活動について、地質学関係の人々は地質学的な知見をもとに壮大な地殻変動を思い描いますが、一般の人々に、この活動の激しさをデータや、証拠をもとに感じ取って頂くことはなかなか難しいことです。当館では火山活動の轟音

と赤々と流れ出る溶岩の光を伴うジオラマでこれを演出しています。ボタンを押すととたんに噴火する火山、子供だましの作り物という向きもありますが、これがなかなか人気が高いのです。利用頻度が高いのでよく故障します。子どもたちをがっかりさせないようにメンテナンスには気を使っています。

秋田と言えば鉱山、黒鉱、油田が有名でした。当館の展示でもこれらを大きくとり上げていますが、鉱山は次々と閉山になり、あちこちに見られた石油櫓も見られなくなってしまいました。やがては博物館の展示でしか見られないと言う状態になるでしょう。デスマスチルスについては、昭和24年に羽後町で臼歯の化石が出ています。展示には北大標本の複製骨格と羽後町産の臼歯の複製及び男鹿市で出た下顎の一部の実物化石が展示されています。

秋田にこだわる限りはどうしても新生代第三紀、第四紀中心の展示となります。残念ながら、子どもたちに人気の三葉虫、アンモナイト、恐竜などが主役として登場することはできません。せめて「秋田にゾウがいたころ」にナウマン象やオツノジカ、ヤギュウ等の大型ほ乳類の骨格が欲しいものだと考えていますが、現在の所は、歯や骨の一部分しかありません。

この後に続いて人文系中心に先土器時代

から近代まで時を追って展示されています。

縄文時代の展示では、雄勝郡雄勝町の上院内にある岩井堂洞穴遺跡から縄文時代早期の生活を復原したジオラマが目を引きます。実物資料も土器、石器などを中心に体系的に見ることができます。また、有名な鹿角郡大湯の環状列石の一部が展示室内に模型展示されています。

国指定重要文化財の人面付環状注口土器、世界最大級と言われる大型磨製石斧をはじめ、県内から出た貴重な資料もここに展示されています。

第2展示室は各部門ごとの展示が行われています。生物のセクションでは秋田の森林や水辺のオープンジオラマがあり、音響と光で四季が演出されています。クマゲラは樹木の幹の高いところにとまっていて見落としがちなので、甲高い鳴き声とともにスポットライトがあてられ注意を引くようになっています。子連れのツキノワグマはいきなりぬっと頭をつきだしてきた姿勢を作られており、ちょっとした驚きがあります。高い切り株にあがったカモシカの親子は関東方面のカモシカにくらべてずいぶん色白です。ススキ原でキジをおそうキツネも真に迫る迫力です。現実の自然にくらべると異常に密度高く動物が生息するジオラマになっており、その辺の不自然さを指摘する向きもありますが、これはこれで人気

の高い当館の目玉展示のひとつです。このほかにも「くちばしとあし」「けものと歯」「花と虫」「有毒・有害な生物」「雪と生物」「森と林と木」「高山の花」のテーマで展示がされています。定期的に展示替えをする部分では「雑木林の昆虫」「秋田のかニ」「秋田の淡水魚」「秋田のカタツムリ」が展示されています。

第2展示室の地質部門では「男鹿半島の地質」「県内の鉱物」「秋田の化石」「秋田の油井掘り」の展示がされています。

化石は植物の現生種との比較、背骨のない動物、魚、現在の秋田では見られなくなった貝などのくくりで展示されています。

県内の鉱物のコーナーでは、放射能を持つ玉川温泉の北投石、秋の宮産でブリコ石と呼ばれるじ状珪石、県北の黒鉱など秋田を代表する鉱物が展示されています。

第2展示室ではこのほかに考古・歴史・民俗・工芸の各部門が新収蔵資料などによる部門展示を行っています。

第3展示室は企画ものの展示を行うための展示室で、現在は特別展を含めて年間4本の企画物の展示が行われています。

平成8年新設の秋田の先覚記念室では、郷土秋田の産業や文化の礎を築いた近代の先覚者の記録や資料を一堂に集めて紹介しています。中には中東の石油開発でアラビア太郎と呼ばれた山下太郎、荒川鉱山開発

で知られる瀬川安五郎、南極探検の白瀬臺らも紹介されています。

同じく新設の菅江真澄資料センターでは江戸時代後半の旅行家で、生涯の半分以上を北奥羽の地で過ごし秋田でその生涯を閉じた菅江真澄の業績や人物像を紹介しています。彼が残した記録の中には、郷土秋田の歴史や文化をより深く読み解くためのたくさんのがかりがあります。

新設の両施設では常設展示の他に企画展示も行われます。

#### 4 利用案内

所在 地：秋田市金足鳩崎字後山52

〒010-01 TEL 0188-73-4121

交 通：JR奥羽本線・男鹿線で追分駅下車徒歩20分。バス（秋田市営交通）金足・堀内線博物館行または堀内行で博物館前下車。（秋田中央交通）五城目線で金足農業高校入口下車15分。車で秋田市街から国道7号線を能代に向かって15km、約30分。

開館時間：（入館は閉館30分前まで）

4月1日～10月31日 9:30～16:30

11月1日～3月31日 9:30～16:00

休 館 日：毎週木曜日（1・2・3月以外の祝日及び無料公開日と重なったときはその翌日）、年末・年始、1月～3月の国民の祝日、全巻薰蒸期間。（休館日などは電話でお確かめの上御来館ください。入館有料）



写真1 冬の秋田県立博物館全景

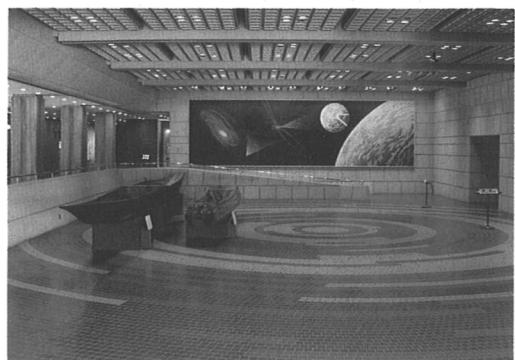


写真2 展示ホール

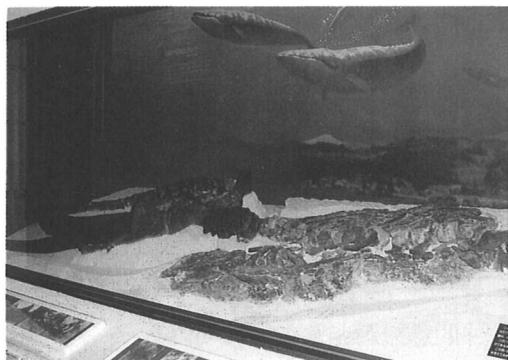


写真3 山から出たクジラ

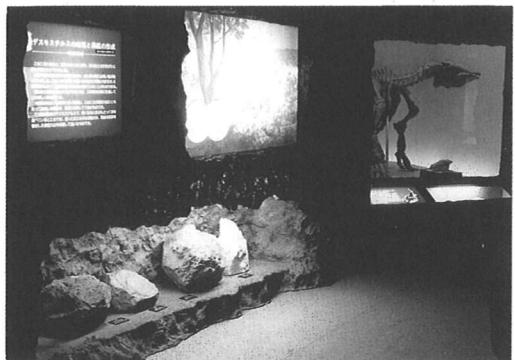


写真4 第1展示室 デスマスチルスの出現と黒鉱の形成

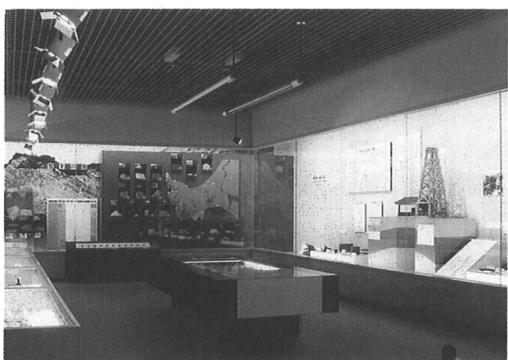


写真5 第2展示室 地質部門



写真6 特別天然記念物北投石